

第二期新武蔵野クリーンセンター（仮称）施設・周辺整備協議会（第5回）
議事要録

日時 平成24年05月15日（火）午後7時～午後9時02分

場所 クリーンセンター3F 見学者ホール

出席 小澤紀美子会長、新垣俊彦委員、金子和雄委員、島森和子委員、高石優委員、飯村雅洋委員、山崎君枝委員、平田昭虎委員、岡田敬一委員、千綿澄子委員、園田治委員、木村文委員、藻谷征子委員、塩澤誠一郎委員、狩野耕一郎委員、越智征夫委員、高橋豊委員、村井寿夫委員、早川峻委員、高橋健一委員、興相信子委員、木村浩委員
事務局（和地所長他）

コンサルタント（株式会社日建設計 高津敬俊主管他）傍聴者5名、記者0名

欠席 水谷俊博副会長

配布資料 1. 次第、2. 模型、パース確認、3. 委員視察報告（H24.3.17）、4. 廃熱エネルギー活用計画（案）、5. 提言から次の検討課題へ

1. 施設・周辺整備協議会の委員及び事務局の変更について

事務局より、施設・周辺整備協議会の委員及び事務局担当者の変更について説明。

2. 施設・周辺整備協議会の検討スケジュールについて

事務局より、施設・周辺整備協議会の今後の検討スケジュールについて説明。

（スケジュールに関して委員からの質問等はなし）

3. 建築デザインの確認

事務局より、新しい模型及びパースについて説明。

以下、意見等

- ・ **会長** ルーバーの間隔や色などの具体的なところは、事業者決定後に詳細を詰めるものと理解いただきたい。今回の模型やパースもあくまで全体の概要を理解することが目的である。
- ・ **委員** 東側の面がほぼフラットになっているが、防水の関係上勾配はとる必要はあるのか。イベント時など、どの程度の荷重まで耐えられるのか。
- ・ **市委員** 防水の関係上、水勾配は付けることになる。東側の広場については、車の乗り入れ等のような耐荷重は想定していない。イベント時の搬入等は北側の駐車場の利用を想定している。
- ・ **会長** 模型の太陽光パネルの表現についても、今後詳細は事業者の提案によることになる。
- ・ **委員** 渡り廊下の耐震性は確保できているのか。ガラス張りで夏場は暑いのではないか。
- ・ **市委員** 耐震性能は、十分な性能を要求水準として求めており、ガラス面などの非構造部材についても提案を事務局側でチェックしていく。ガラス張りの廊下はデザインとの関係もあるので、事業者選定委員会で判断することになる。
- ・ **委員** 北側のデッキは、建屋の壁に沿ったイメージだったが、技術的に難しいということか。
- ・ **市委員** 北側のデッキの建屋寄りにスロープがあり、スロープとデッキを構造上切り離すた

めに、敷地北寄りにした。また、デッキから野球場を見られるようにしたいという理由もある。

4. 視察報告

事務局から3月17日の多摩ニュータウンエコにこセンター、町田リサイクル公社の視察報告。以下、委員からの補足、意見等

- ・ **委員** エコにこセンターの方は、行政との役割分担で苦勞されている印象があった。行政でまかないきれない部分をNPOが運営しているという形で苦勞されているようだった。武蔵野市はゴミの減量・分別とリサイクル・リペアは一体で進めていくべきと感じた。
- ・ **委員** 両施設ともに、バックヤードの面積が広大であったが、武蔵野市の場合はこのようなバックヤードを持つことは不可能であり、この点も考えておく必要はあると思う。また、両施設では、リサイクル品の値段の付け方に差があった。武蔵野市はどのようなスタンスでリサイクル販売等行うのか議論が必要と感じた。
- ・ **委員** 今後エコプラザの方にリサイクル作業場など設ける場合、自然光線が入る作業環境というのは重要だと感じた。
- ・ **委員** エコにこセンターの方は、人が立寄りやすい場所にあり、活動内容が展示されており、参考になった。ごみの減量についても徹底しているとともに、市民が気軽に立ち寄れる場所も確保されており、好感が持てた。エコプラザにおいても参考になる点は多いのではないかと。町田リサイクル公社については、車がなければ行きにくい場所であり、大勢の人が参加しやすい仕組みづくりが必要だと感じた。
- ・ **会長** エコプラザの方は、ソフト面の話が絡んでくるので、リサイクル活動を行っている他の団体などとの交流は継続的に行って、ネットワークを広げていくことが重要。
- ・ **会長** 学校帰りに立ち寄れるような学習の場、ひいては人材育成の場になればと思う。今後もエコプラザの内容については議論していくことになる。

5. 廃熱エネルギー活用計画について

事務局より、廃熱エネルギー活用計画について説明。

- ・ **委員** 現状は、電力会社からの供給のみで、災害が発生した場合一切の電力供給がなくなるということなので、新施設の対策が必要だと感じた。
- ・ **委員** 非常時に電力を供給する場所（緑町コミュニティセンターなど）については、その場所が担う役割についても議論・摺合せが必要であると感じた。
- ・ **市委員** 地域防災計画の見直しの中でコミュニティセンターの位置づけも今後大きな議論になると考えている。基本的には、小中学校が一時避難場所という位置づけであるが、災害の想定規模の見直しの中で、コミュニティセンターの開放などについても今後議論が進むのではないかと考えている。災害時にクリーンセンターから緑町コミュニティセンターまで電力が送れるというシミュレーションをしたが、緑町コミュニティセンターの位置づけについては、地域防災との関係も考慮しながら議論していければと考えている。
- ・ **委員** 災害時の計画を見ると、ガスのコジェネレーションに頼っているように見えるが、ガスの供給体制の信頼性はどうか。
- ・ **市事務局** 東京ガスへのヒアリングによると、今回のガス・コジェネレーションに使用する

中圧ガス管については、災害後、即復旧していると聞いている。低圧については、マイコンメーターの確認などで復旧に時間はかかるとのことだが、東日本大震災の際にも、ガス管自体には損傷はなかったと聞いている。

6. 提言から次の検討課題について

事務局より、エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）の今後の検討の進め方について説明。

- ・ **委員** 資料の中で、エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）の位置づけについて、「主」と「従」があるとの説明だったが、低炭素社会モデル、地域力の向上、まちづくりとの連携という3つのテーマを実現することが重要であり、主従などの位置づけは不要ではないか。
- ・ **市委員** エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）が、機能を発揮していくことが重要であり、表現の違いだけということをご理解いただきたい。
- ・ **会長** 3つのテーマに基づく具体的な整備方策については、第一期の施設・周辺整備協議会で整理したところであるが、第一期からの委員の方は再度思い出していただき、第二期から加わった委員の方は、新しい視点で新しい発想を次回以降の協議会においてご意見として出していただければと思う。NPOの関わり方などについても検討いただきたい。7月と9月に、エコセンター（仮称）とエコプラザ（仮称）の関係を議論する場を設けるので、よろしくをお願いしたい。

7. その他

- ・ **委員** 前回の視察が非常に有効であったと感じており、もう少し他の事例も見たいと考えているので、いくつか候補があるので事務局の方で視察について検討をお願いしたい。

以上